

立命館大学環太平洋文明研究センター第 22 回研究会

2018 年 7 月 20 日（金）18:00—19:30

立命館大学衣笠キャンパス以学館 4 階 IG405 教室

ペルー考古学の成果と課題 ～様式論の展開と編年研究を中心にして～

市木 尚利

（立命館大学環太平洋文明研究センター 客員協力研究員：考古学）



マチュピチュ：山岳地帯に栄えたインカの遺跡

19 世紀、近代科学の一つとしてペルーで考古学が発展しました。その研究過程で常に問題となってきたのが編年体系の構築です。「様式」や「ホライズン」の両概念は、文明の起源と発展過程を明らかにしようとする編年研究には欠かせない概念となりました。ペルーにおける様式論の展開と編年研究のこれまでを振り返りながら、その成果と課題を考えます。そして、「様式」を受容した日本考古学との比較を試みながら、比較理論研究とその意義についても探ります。

立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335

HP：<http://www.ritsumeai.ac.jp/research/rcppc/>